工業っ子

NO. 086
—発行日—
2013. 09. 11
—編集—
長崎工業高校新聞部
—発行—
長崎工業高校新聞部

結果に繋がった!!
たゆまぬ努力、集中力
若年者ものづくり インターハイ ヨット 世界大会

八月七日八日に行われた若年者ものづくり競技大会にて、木材加工部門ではI2阪本隆司君が優勝、自動車整備部門ではM3坂上幸詩君が三位入賞。また、ヨット部が同月十六～二十日に行われたインターハイにて、ソロ競技（元津・後ペア）優勝、団体四位入賞。スペインでのヨット世界選手権大会にも出場しました。

◀練習の成果を、今！

▲拝啓、スペインの海より笑顔、輝く。（インターハイ）▼

▲整備士の意地

こだわりで掴んだ日本一
木材加工部門

木材加工に出場したI2阪本隆司君。昨年優勝した先輩に続き、見事日本一に輝きました。大会までの四ヶ月間は、三十個も同じ作品を作り続けて腕を磨いたとのこと。

大会後、阪本君は「応援してくれた方々に感謝。この大会での経験を自信に繋げて、これからはより高いレベルの作品を作っていきたい」と、ホッとした様子。指導担当の北川先生は「練習したことを発揮できればきっと優勝できると信じていた」と、阪本君に労いの一言。「基礎練習を乗り越えて、今ものづくりは「楽しみ」だと答えてくれた阪本君でした。

▲作業着の戦士

悔しさ残る三位
自動車整備部門

今大会初挑戦の坂上君。大会前のインタビューでは「日本一を目指す」と気合十分の意気込み。それに加えて、大会前日には願掛けとして「ネギ塩とんかつ」を食べ、万全の状態で初大会に挑んだそうです。

大会を振り返っての感想を坂上君は「ずたぼろだった。思ったように作業ができなくて最悪な出来だったけど、三位という結果を残せたので良かった」と、悔しそうな表情で話してくれました。指導をされた岡本先生からは「全然だめ」と厳しいコメント。「優勝とはなりませんでしたが、連続で賞を取っている自動車整備部門。先輩達の結果を引き継ぎ、来年の活躍に期待です。

今日の一枚
～怠け癖～

みなさん夏休みどう過ごしましたか。部活に明け暮れた人、家でゴロゴロしていた人、勉強漬けだった人などそれぞれだと思いますが、季節の変わり目で体調を崩す人が多いこの時期。それに加え、生活リズムが狂ってしまった人も保健室のお世話になりやすいのでは：リズムの崩れは早めに直し、新学期のいいスタートを切りましょう。

▲猫もだらけるこの季節

▲一位独占！ in唐津

ソロ優勝・団体四位
ヨットインターハイ

八月十六日から二十日に佐賀県の唐津市で行われた、ヨット競技のインターハイ。選手に聞くと海上に大きな波がある中でも選手は円陣を組み、応援の声を出し、競技前から会場は熱気に包まれていたとのこと。

結果は元津&後ペアがソロ優勝、団体は四位。キャプテンの倉永さんは「三嶋先生の首に団体優勝の金メダルを掛けれなかったことが一番悔しい。これからまた、来年のインターハイにむけて全員で頑張っていきましょう！」と後輩へ向けて気合の入った言葉をもらいました。

今回見つけた課題でこれからどう飛躍するのか、ヨット部のこれからの活躍が楽しみです。

▼ネギパワーで頑張りました

世界との戦いで得たモノ
ヨット世界選手権大会

七月二日からスペインのバレンシアで行われた、セーリング420級世界選手権バレンシア大会。世界各国からの選りすぐりが集うこの大会に、日本代表として本校ヨット部のI2濱本郁さんとA2元津志緒さんが出場しました。会場には陽気な音楽が流れ、選手も楽しみながら競技に挑んでいる様子。日本との雰囲気の違いと、強風にとまどいながらも大会は始まりました。

▲他国の選手とピース

帰国後、大会について濱本さんからは「ずっと経験してみたかった大会だったけど、風が強い中のレースで気持ちで負けていた。これからは、どんな風でもどんとこい！という気持ちを強く持っていく」と力のこもったコメントを貰いました。また、元津さんは「世界大会という大きな舞台で、他国の技術レベル、気持ちの強さにただただ圧倒された。でも、今後の課題を見つける貴重な経験をさせて頂けて本当によかった」と話していました。

上位入賞は逃してしまいましたが、二人とも技術、精神共に成長し、結果以上のものを得ることができたようです。

青春日記

人々が恐れるものといえば一般的に地震、雷、火事、親父だと言われていますが、私にとって最も恐るべきもの、それはテレビジョン。この時期に放送されるホラー番組には実に肝が冷えます。

乗りつけのJRで「心霊体験！」などと書かれた雑誌を読んでいるサラリーマンがいたり、若いOL達が大声で恐怖話を話し合っていたり、怖い話を話すことを生業とする著名人がいたりする：日本人はよっぽどホラー（というかオカルト）が好きらしい。でも、だからって父よ、リビングで堂々と貞●3Dを見るのはやめてくれ：。襖で隔てていても、僅かに漏れ出る音や雰囲気にビクビクしてしまいます。だって怖いんだもん。

そもそも私がこんなにもビビりなのは、小学生の頃、とあるお化け屋敷に入っていった母について行ってしまったから。初めてのお化け屋敷でにもなくワクワクしていた私。しかし、想像以上の恐ろしさに入場早々グロッキー&ナーバスに。その状況に耐えかねた私はその後、目を閉じながら歩いたり、一気に道を通り抜けたりして何とかゴール。垂れ幕をくぐると、どうやら写真撮影の準備がされている様子。無事危機を乗り越えたという安心感もあり、私が思いっきりの笑顔でシャッターに目を向けました。

しかしその直後、私が見たものはフラッシュでは無く死に装束を着た髪が膝までである女性。彼女（？）が生□貞●だと理解するまで時間はかからず、ダブルピースのまま瞬時に真顔になる私。我が家の歴史に残る最もシュールな一枚の誕生の瞬間であった：。

その時から始まったビビり人生。それが高じて夏は恐怖の季節となりました。山田は無事今夏を乗り切る事ができるのか：もう秋やけどな！

（山田）

携帯電話の罠

現代では、多くの人が利用している携帯電話。携帯の利便性は誰もが認めています。しかし、犯罪や集中力の低下など、ネガティブな話題で取り上げられることがほとんど。中でも、私が危険だと思うものが「携帯依存症」。携帯依存症の症状は「携帯がないと何もできない」「携帯が手元にないと落ち着かない」といった例が挙げられます。皆さんは大丈夫ですか。

最近、ネット上で「匿名掲示板」をよく目にします。匿名の場合、責任を感じず自由に書き込みができます。そのため、なかには無責任な書き込みや「なりすまし行為」をする人もいます。その掲示板への書き込みで人との繋がりを持った気になり孤独感を埋め、書き込みが生きがいや存在の証明のような気になり、依存に繋がっています。

しかし、匿名掲示板で本当のコミュニケーションが取れているのでしょうか。実は錯覚している気がします。掲示板では自分の思うことを正直に言えても、実際にその人を目の前にするとネット上とのギャップが生じ、コミュニケーションが上手くいきません。

コミュニケーションとは互いの感情や考えを言葉だけでなく声、表情などからも伝え合うこと。社会に出る上でコミュニケーション力は最も重要。まずは相手の表情、声を聞き、言葉の向こう側にも目を向けて真正面から相手と接することから。心から相手と向き合い、お互いの思いと言葉が自分の口から話せてこそコミュニケーションです。

二学期には体育祭や文化祭があります。自分の目や耳、そして身体で体感することの方がネットや携帯電話より何倍も楽しく価値のあること。皆で取り組む学校行事を良い機会に自分のコミュニケーション力を見直し、現実の世界で通用するコミュニケーション力を身につけましょう。（渡邉）